

吹田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成27年度進捗評価

基本目標	平成27年度 取組状況	地方創生 先行型交付金	施策の評価※1				数値目標		平成28年度 取組予定	地方創生 加速化交付金
			A	B	C	D	項目	実績		
1 企業が成長し、地域経済に元気をもたらすまち	北大阪健康医療都市における国際級の複合医療産業拠点の形成については、関係機関との間で協議会を設置するとともに、進出事業者の募集について検討を行った。 また、市内への企業移転・進出による地域産業の活性化、創業促進や企業の成長支援による雇用の創出において、支援制度の検討や国の機関、不動産業者等へのヒアリングを実施し、情報収集を行うなど、取組を進めている。 魅力ある商業地づくりについては、空き店舗活用に係る補助金の利用状況に課題があるものの、商業相談や情報発信事業などを実施した。		2	3	0	0	事業所における労働生産性（従業員1人あたり付加価値額）504万円	—※2	北大阪健康医療都市における複合医療産業拠点の形成において、進出事業者等の募集を行う。また、地域活性化につながる企業誘致に向け、本市の特性を活かした制度を確立する。 創業支援に係る関係機関等との連携強化を図り、「チャレンジャーを応援するまち吹田」の都市ブランド構築に努める。 各商店街の空き店舗の状況を、具体的に把握することにより、出店希望者と商店街とのマッチングを図るとともに商工会議所と連携し具体的な空き店舗対策を行う。	
							開業率－廃業率 3ポイント以上	—		
							商店街等における空き店舗率7.3%以下	9.0% （平成27年10月1日現在）		
2 「住む」「楽しむ」新たな魅力が見つかるまち	都市魅力の強化と戦略的な情報発信について、平成27年11月に情報発信プラザ（Inforestすいた）をららぽーとEXPOCITY内に開設するとともに、市内外に本市の魅力を発信し、市内回遊の促進による地域経済の活性化につなげることを目的に情報誌を日本語版（吹田本）と4か国語対応の外国語版で発行した。 また、ガンバ大阪ホームタウンの推進に向け、担当職員の配置や後援会への会議出席を行うなど、協力体制の構築に努めている。 安全・快適な道路環境の整備として「自転車走行環境整備計画策定準備会議」を設置し、方向性について議論するとともに、自転車に関する市民意識アンケート調査を行った。 また、みどり環境の継承と充実に向け、街路樹及び公園・緑地樹木の健全度調査を行い、その結果に基づき緊急的改善処置を実施した。 環境先進都市をめざして、吹田市地球温暖化新実行計画改訂版の策定し、目標や施策を明確にした。	樹木健全度緊急調査事業（H27.3月補正予算） 事業費189,864千円、うち交付金61,287千円	1	5	0	0	転入超過（転入者数が転出者数を上回る）を維持	1,247人 （平成27年）	庁内横断的な組織により「（仮称）吹田市シティプロモーション戦略プラン」を策定するとともに、民間経験者の非常勤職員を配置し、北摂各市と連携したプロモーションや北摂観光の取組を進める。また、Inforestすいたでの定期的なフェアやEXPOCITY内の広場を活用したイベントなどを実施する。 安全・快適な道路環境の整備として「自転車走行空間整備計画」を策定し、自転車走行環境の整備を進める。 みどりの環境の継承と充実に向け、高質な街路樹及び公園・緑地樹木の再生に向けて、予防保全的な適正管理の考え方を整理した「（仮称）樹木適正管理指針」を策定する。千里南公園パークカフェ整備事業では、パークカフェのイメージやデザイン等に関するアイデアコンペを行う。また、集合住宅での「彩団地プロジェクト」の検討に着手する。	
							市民の定住意向60%以上	—		
							住みたい街ランキング（関西）1位	6位		
							観光施設利用者数5年間で1億人	372万人 （平成26年）		
3 就職・子育ての希望がかない、未来を担う人材が育つまち	若者と市内企業のマッチングを目的に、「吹田合同企業説明会」を昨年に引き続き開催し、100名を超える市内の大学生が参加した。 ワーク・ライフ・バランス等に関する啓発を行うため、事業者説明会を行った。 また、子育てしやすい環境の整備に向け、教育・保育施設や子育て支援施設等の検索システムを導入し、情報の充実及び提供に取り組んだ。保育の量的拡大・確保策として、私立保育所2か所、市立幼稚園1か所の認定こども園化を図るとともに、保育所1か所、小規模事業所7か所の増設に取り組んだ。 両親教室（父親育児編）を臨時で開催するなど、育児参画の推進を図った。 教育の充実として、「中学生の主張」大会におけるいじめ撲滅宣言の発表、読書活動支援者の増員を行った。	子ども・子育て支援情報充実事業（H27.3月補正予算） 事業費及び交付金5,583千円	1	7	1	0	就労支援施策等による若年者の就職者数5年間で2,250人	301人	各々の地元就職への支援策として、近隣市や地域の金融機関と連携し、広域における大学生等の採用支援に取り組む。 子育てしやすい環境の実現に向け、「待機児童解消アクションプラン」を策定し、待機児童の解消を目指す。具体的には、増大する保育需要に対応する保育所の創設や小規模保育事業所の設置を早急に進める。さらに、平成28年4月から市立幼稚園8箇所を順次幼稚園型認定こども園に移行するほか、私立幼稚園の認定こども園化の促進策に取り組む。また、利用者支援事業を実施する中で、検索システム等を活用しながら、利用者が教育・保育施設や子育て支援事業を円滑に利用できるように支援するとともに、子育て支援に関する情報を充実させ、発信していく。 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援として、妊娠出産包括支援事業を創設し、保健センター及び保健センター南千里分館に専任の保健師を配置し、相談体制を充実させるとともに、平成28年10月から、妊娠届出の窓口を集約し、全ての妊婦に面接を実施する。また、英語コミュニケーション体験の機会の充実に向け、OSAKA ENGLISH VILLAGEを活用し、吹田独自のプログラムを実施する	
							市内大学生の市内企業への就職希望率35.8%	—		
							安心して子育てができる環境にあると思う子育て世帯の割合70%	—		
							保育所待機児童数0人	—		
4 誰もが安心して暮らせる「幸齢社会」が実現するまち	健康・医療のまちづくりによる健康寿命の延伸に向け、高齢者向けウェルネス住宅整備方針を策定するとともに同住宅の整備・運営事業者の募集を開始した。また、運動による健康増進の取組として、ウォーキングに関する講習会を開催した。 また、「地域包括ケアシステム」の構築を図るため、在宅医療・介護連携推進や高齢者生活支援体制整備などに係る準備会を設置し、検討を行った。併せて、地域包括支援センターの委託化、充実に取り組んだ。 地域コミュニティの強化、安心安全のまちづくりとして、地域活動団体の防犯カメラ設置に補助を行い、地域防災力を向上させた。 平成28年3月には吹田市公共施設最適化計画【実施編】を策定した。現在、「（仮称）吹田市公共施設等総合管理計画」の策定に向けて作業を進めている。		6	6	1	0	健康寿命 男性81歳 女性85歳	—	「健都版生涯活躍のまち」の取組として、高齢者向けウェルネス住宅の整備・運営事業者の選定を行うとともに、健康増進公園の整備工事や（仮称）健都ライブラリーの設置に向けた基本設計及び実施設計をプロポーザル方式にて行う。また、（仮称）＜健都＞健康・医療のまちづくり加速化プラン（健都版生涯活躍のまち基本計画）を策定する。 加えて、キッズ健康サポーター、健康ポイント事業、成人歯科検診事業の拡充、大規模公園での体操、ウォーキングの啓発などに取り組む。 介護予防・日常生活支援総合事業準備事業として、フォーラムや説明会、研修等を実施するとともに、情報共有や連携の場として、「（仮称）吹田市在宅医療・介護連携推進協議会」及び「（仮称）吹田市高齢者生活支援体制整備協議会」を設置する。また、ふれあい交流サロンの増設、認知症カフェ連絡会の設置、成年後見制度利用についての啓発などに取り組む。 避難所運営マニュアルの精査や市域での防犯カメラの設置などに取り組む。安心安全のまちづくりを進めるとともに、「（仮称）吹田市公共施設等総合管理計画」を策定するなど、持続可能な都市経営を推進に努める。	医療クラスター整備事業において「健都版生涯活躍のまち（CCRC）基本計画」の策定（H28.3月補正予算） 事業費及び交付金15,126千円

※1【評価】について

- A：取組を実施した（実施済・実施中）
B：取組を一部実施した（一部実施済・実施中）
C：方針、具体策等を検討中
D：未着手またはアクションプランの見直しが必要

※2「－」については、現時点で実績数値が把握できていないものを示しています。